



日本人は、小指で鼻孔をきれいにする？

参議院議員
客員相談役 藤井 基之



東日本大震災の発生直後、外国のメディアで、日本人は大災害の中でも冷静さを失わないと、称賛する記事が報道されました。仙台で取材していたCNNの記者は、本国の記者から「被災者は商店を略奪したり、暴動を起したりという暴力行為には走らないのか」という質問を受け、「住民たちは冷静で自助努力と他者との調和を保ちながら礼儀をも守っている。略奪など、そんな動きは、シヨックを受けるほど皆無で、正直な志向が顕著だ」と答えました。米国では二〇〇五年八月にハリケーンがルイジアナを襲った際、ニューオーリンズ市内で、無人になった商店を襲い、略奪する事件が相次ぎました。また、海外ニュースで、災害地等で人々が、我先にと救援物資を奪いあう光景がよく報道されます。

しかし、日本では、みなキチンと列をつくって自分の番を待っている、そんな私たちには当然と思っている情景も外国人がみると、日本人は冷静で、礼節を守る素晴らしい民族だ、と見えるようです。

とつぶ。理性に基づいて行動せぬ者を、彼らは馬鹿者とみなし、日本語で「スマンヒト」、すなわち「澄まぬ人」と称する」と、ローマ法王庁に報告しているそうです（松田毅一著「南蛮太閤記」より）。気恥ずかしくなるような褒め言葉です。宣教師たちは、アフリカ、アジア諸国を回って日本に来たのですが、「地球の裏側に、ヨーロッパと同じレベルの文明をもつ国があった」と驚嘆したそうです。戦乱に明け暮れていた時代ですら、ヨーロッパ人から見ると、日本人は、そう見えたようです。

今から五百年前、信長や秀吉、家康が天下統一を目指していた戦乱の時代、ポルトガルやスペイン、イタリアなどから、多くの教師たちがキリスト教の布教に日本を訪れました。そのうちの一人、イタリア人のオルガンティーンという宣教師は、「日本人は、全世界で最も賢明な国民に属しており、彼らは喜んで理性にしたがうので、我ら一同よりはるかに優れている。この国では怒りを外に現わすことは極度に嫌われる。彼らはそのような人を「キミジカイ」、すなわち我らの言葉で「小心者」

とつぶ。理性に基づいて行動せぬ者を、彼らは馬鹿者とみなし、日本語で「スマンヒト」、すなわち「澄まぬ人」と称する」と、ローマ法王庁に報告しているそうです（松田毅一著「南蛮太閤記」より）。気恥ずかしくなるような褒め言葉です。宣教師たちは、アフリカ、アジア諸国を回って日本に来たのですが、「地球の裏側に、ヨーロッパと同じレベルの文明をもつ国があった」と驚嘆したそうです。戦乱に明け暮れていた時代ですら、ヨーロッパ人から見ると、日本人は、そう見えたようです。

一五六三年、ポルトガル人のルイス・フロイスという宣教師が日本にやってきました。彼は、一五九七年、母国に帰ることなく長崎で亡くなりましたが、その三十年余の間に、日本の戦国時代の様子を克明に記録し、法王庁に

報告し続けました。その記録は今も残り、フロイスの「日本史」として有名です。フロイスは、当時の天下人織田信長に好かれ、何度も会ったようですが、彼は信長について、「彼は、中位の背丈で、華奢な身体であり、ひげは少なく、声は快調で、極度に戦を好み、名誉心に富み、正義において厳格であった。自らに加えられた侮辱に対しては懲罰せずにおかなかつた。彼は少しく憂鬱な面影を有し、困難な企てに当たっては大胆不敵で、万事において人々は彼に服従した。」と記録しているそうです。

そのフロイスが、日本とヨーロッパの風習の違いを報告しているそうですが、それがなんと六百十五項目もあるそうです。そのうちのいくつかをご紹介します（同「南蛮太閤記」より）。

終わるところから、日本の書物は始まる。

- ヨーロッパでは、自殺は極めて重罪とみなされるが、日本人は戦いにおいて、もはや力尽きたときは切腹することを勇敢とみなす。
- ヨーロッパでは、葡萄酒をひやして呑むが、日本人は酒を飲むために温める。
- ヨーロッパ人は親指又は人差し指で鼻孔をきれいにしますが、日本人は鼻孔が小さいので小指できれいにする。昔も、今も、日本人に対する欧米人の見方は変わっていないのでしょうか？

藤井 基之

- 生年月日 昭和22年3月16日
- 選挙区 参議院比例区
- 当選回数 2回
- 出生地 岡山県岡山市
- 趣味 音楽・読書
- 個人ホームページ <http://www.mfujii.gr.jp/>
- その他 薬学博士・薬剤師
- 私の政治信条
私の政策の柱はA(エイジフリー)B(バリアフリー)D(ドラッグフリー:薬物乱用のない社会)社会創りです。
高齢者も、障害を持つ方も、国民誰もが安心して暮らし、元気で生活を送ることのできる長寿社会を創るために何が必要か、を政治活動の根底においています。
好きな言葉「昨日の夢は、今日の希望、そして明日の現実」
- 活動報告
参議院議員厚生労働委員会理事として、食品安全確保のための食品衛生法改正、健康増進法改正、薬事法改正、薬剤師法改正、クリーニング業法改正、国民年金法改正等に関与。
- 経歴
昭和37年 岡山大学教育学部附属中学校卒業
昭和40年 岡山県立岡山操山高等学校卒業
昭和44年 東京大学薬学部薬学科卒業
昭和44年 厚生省入省
平成9年 厚生省退官
平成9年 財団法人ヒューマンサイエンス振興財団 専務理事
平成12年 日本薬剤師連盟 副会長
社団法人日本薬剤師会 常務理事
平成13年 参議院議員(1期目)
平成16年 厚生労働大臣政務官(平成16年9月~平成17年11月)
平成19年 日本薬剤師連盟 顧問
平成22年 参議院議員(2期目)
- その他
慶應義塾大学薬学部 客員教授
昭和大学薬学部 客員教授
東邦大学薬学部 客員教授
新潟薬科大学 客員教授
京都薬科大学 客員教授
近畿大学薬学部 客員教授
千葉大学薬学部 非常勤講師